

全国の認知症の高齢者数は、2025年には、最大で730万人に上り、65歳以上の5人に1人にまで増加することが、厚労省研究班による推計で分った。別の研究班が2012年時点で462万人と推計しており、ここ10数年で1.6倍に急増する見通しである。

2060年には最大で、1,154万人（65歳以上の3人に1人）とも推計しており、政府は急増する認知症の国家戦略を1月中に策定し、対策を急ぐ。

政府は初めての国家戦略として、認知症の予防・治療の研究開発に力を入れ、2015年度中に、ごく早期の認知症を診断する方法を確立し、2020年度ころまでに、認知症の根治薬の治験を始めることを目標に掲げている。このほか、2016年度からは、看護師や介護職員向けの専門研修を新設する。認知症の人や家族が住みなれた地域で暮らし続けられる支援も強化するという。 (2015/01/07 読売新聞から)